

京都府民ステーション(仮称) 整備事業地質調査業務

業務概要書

平成25年3月

株式会社 関西土木技術センター

1.調査概要

• 目的

京都市下京区にある七条警察署跡地の民間事業者募集のための基礎資料とするため、当該地の地盤の情報を得ることである。

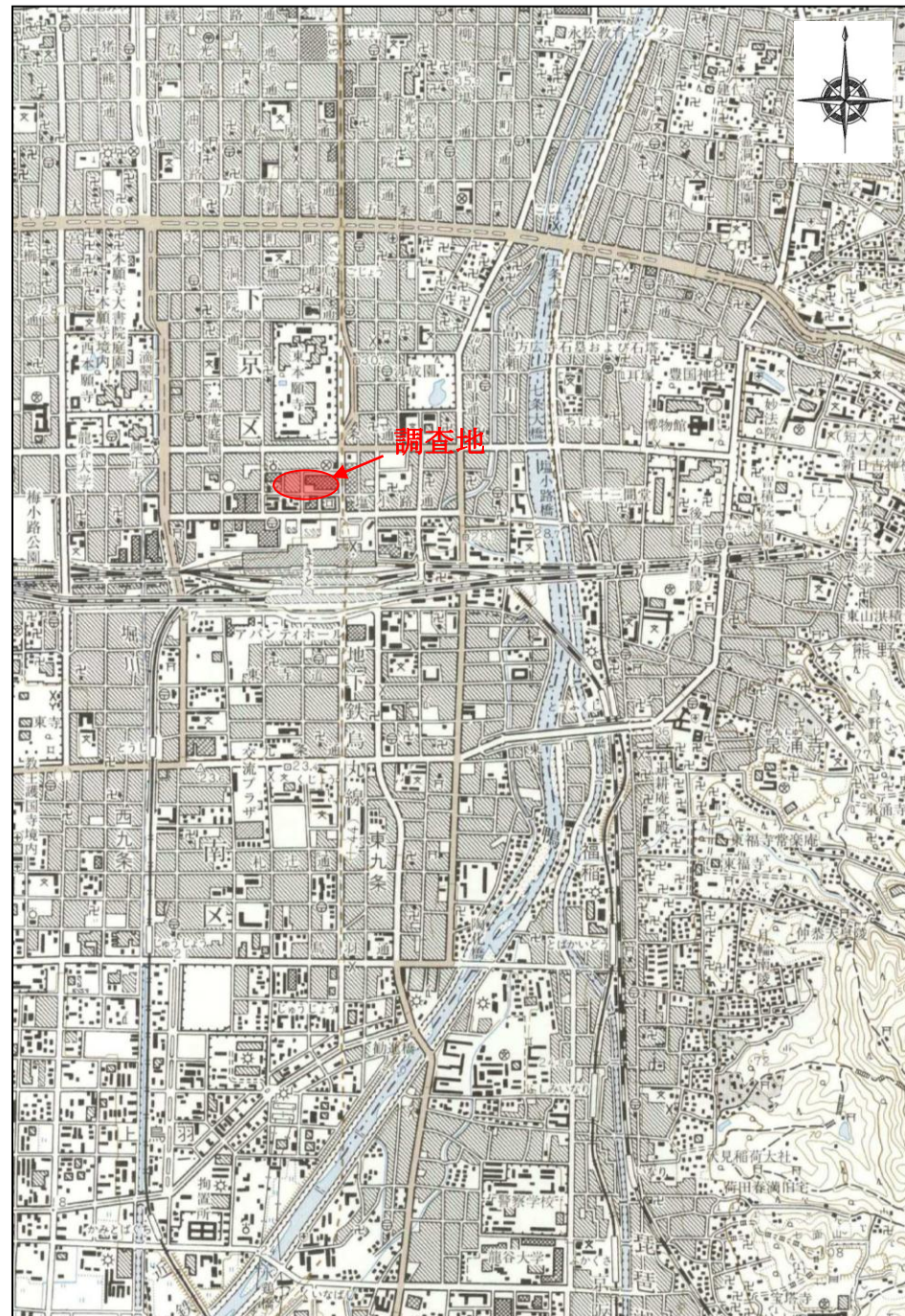
• 調査数量

孔番 (No.)	ボーリング掘削長 (m)				標準貫入試験(回)			足場 仮設	調査孔 閉塞
	総 長	φ 66mm内訳			粘性土	砂質土	礫質土		
		粘性土	砂質土	礫質土					
1	20.00	0.00	0.00	20.00	0	0	20	平坦地	1
2	20.00	0.40	0.00	19.60	0	0	20	平坦地	1
合計	40.00	0.40	0.00	39.60	0	0	40	平坦地 2箇所	2

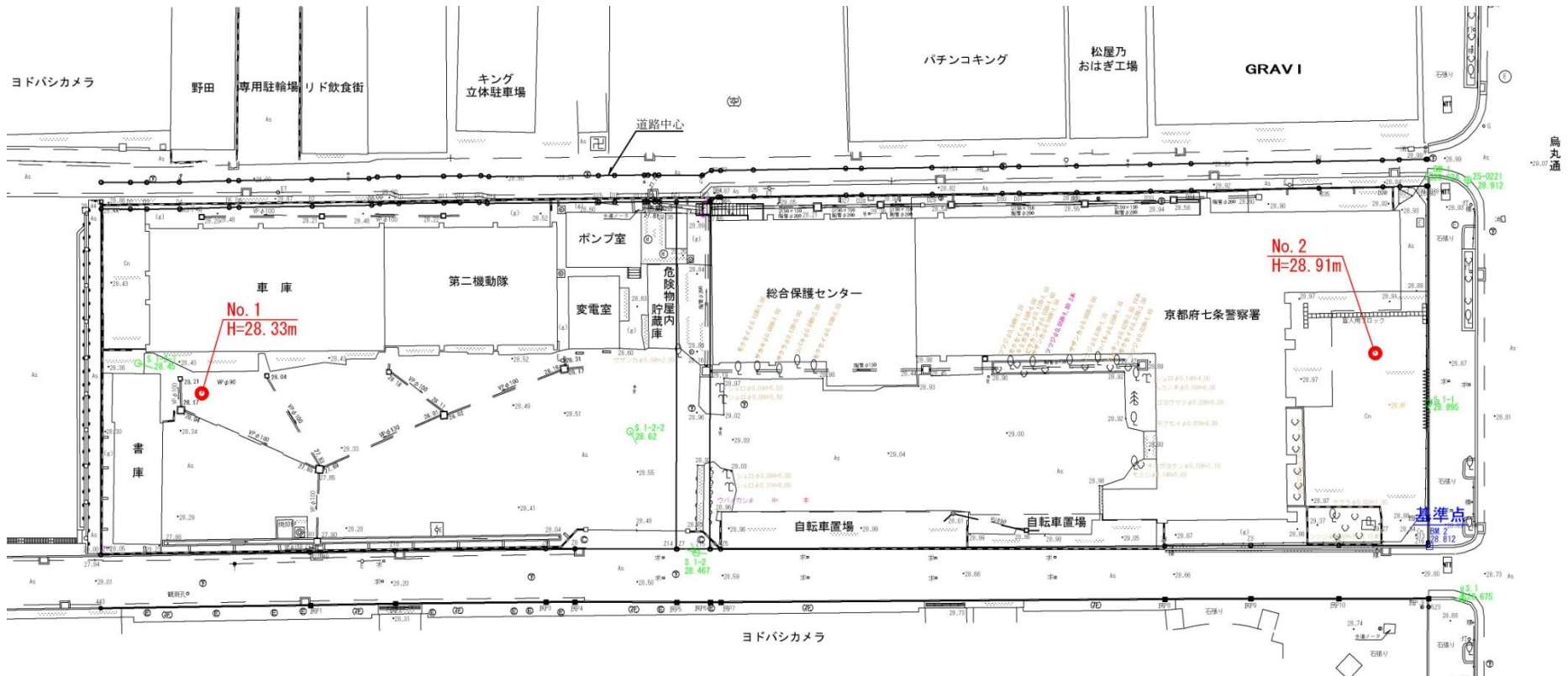
2.調査位置

調査位置

京都市下京区烏丸通七条下る
東塩小路町702-2,702-3,702-5,707-2
(七条警察署跡地)



3.ボーリング位置

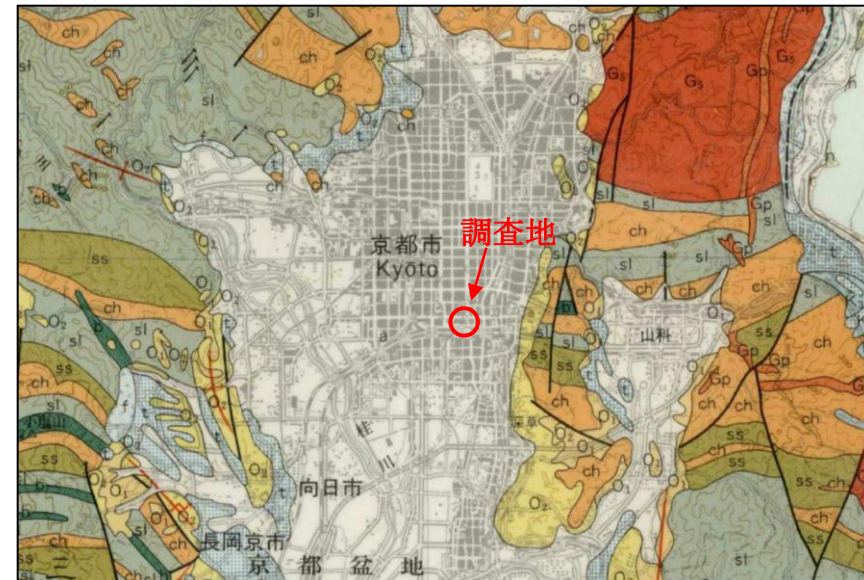


4.地形・地質概要

● 地形概要

調査地は、京都盆地の中央～北部にあたり、京都駅から約200m北側に位置する。

京都盆地は、中・古生層の丹波層群と花崗岩類からなる山地に取り囲まれており、北から流れる桂川と鴨川が盆地中央から北部地域の主な河川である。盆地中・北部は、これらの河川などにより大小の扇状地や氾濫原が形成されており、本調査地は、鴨川の影響を大きく受け、多量の砂礫が運搬・堆積したことでできた扇状地である。



● 地質概要

本地域は、扇状地性堆積物の粗粒な礫層が分布し、これらは洪積相当層の礫層で、薄い粘土層を挟んで厚く堆積している。

また、右図の表層地質図に示すように、本地域の表層には沖積層が分布する。京都盆地の沖積相当層の層厚は、盆地中・北部にかけては概ね層厚0～4m程度となっている。

本調査では、上位より盛土、沖積層、洪積層の分布が確認された。

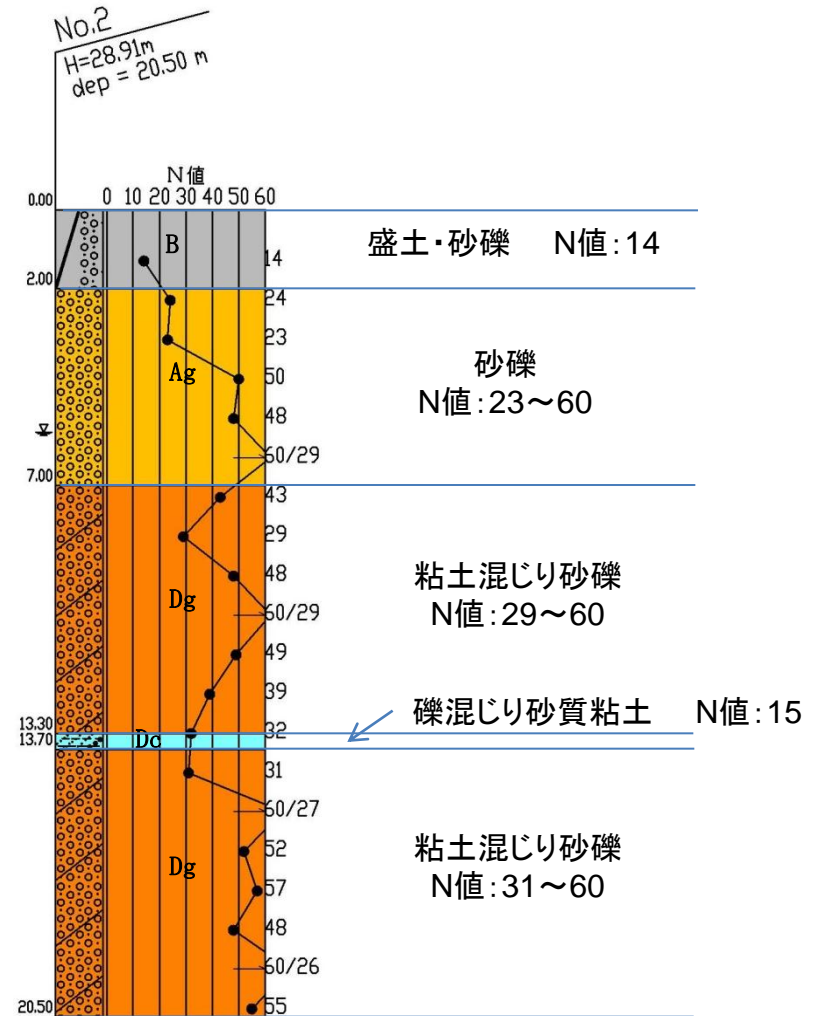
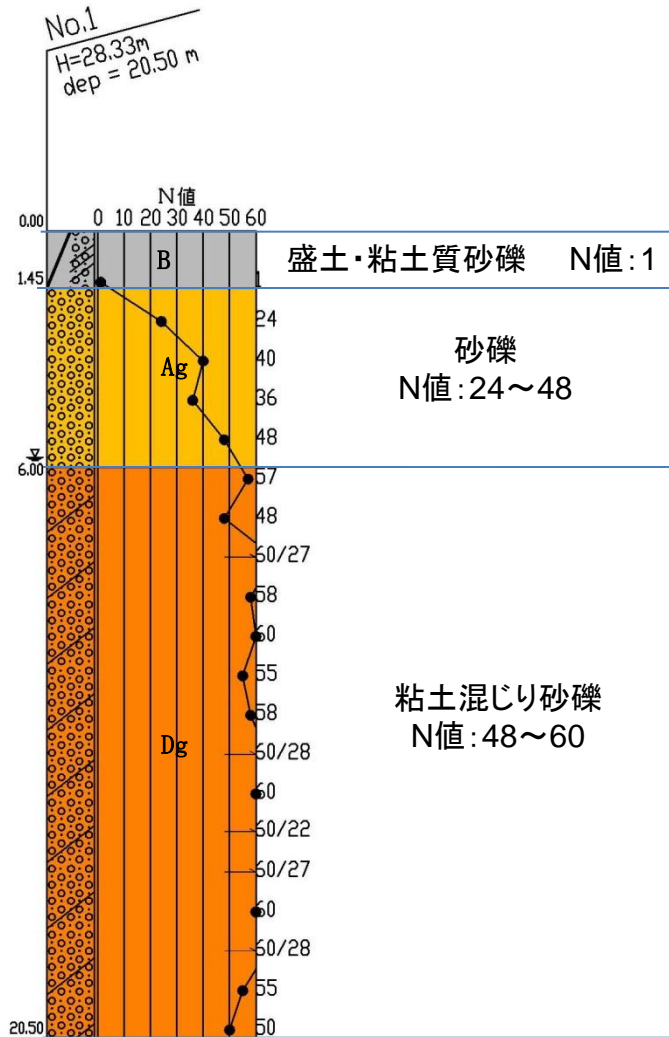


5.調査結果(地層分布状況)

地層区分表

地質区分		地質記号	データ数	N値の範囲	平均N値	相対密度	相対稠度
盛土	礫質土	B	2	1～14	8	緩い	-
沖積層	礫質土	Ag	9	23～60	39	密な	-
洪積層	粘性土	Dc	1	15	15	-	硬い
	礫質土	Dg	29	29～60	53	非常に密な	-

5.調査結果(各ボーリング結果)



5.調査結果(孔内水位について)

- 泥水位はGL-5.65～5.75mで測定され、2孔とも同程度の水位を示している。泥水位は必ずしも地下水位を反映するとは限らないが、弊社が実施した京都駅近傍のボーリングデータを踏まえると概ね地下水位を表していると考えられる。

孔番	水位 (GL-m)	測定状況	測定日
No. 1	5.75	泥水位を測定	H25. 2. 21
No. 2	5.65	泥水位を測定	H25. 2. 25

6.まとめ

- 地層は、上位より盛土(B)、沖積層礫質土(Ag)、洪積層礫質土(Dg)に大別され、ほぼ水平に堆積する。
- 地下水は、概ねGL-5.0~6.0mにあると考えられ、Ag層ならびにDg層を帯水層とする自由地下水である。
- B層以深のAg層やDg層においては一般的に支持層として期待できる。なお、Ag層はN値のばらつきがやや大きいため、荷重規模の大きい構造物に対しては、Dg層を支持層とするのが安全と考えられる。
- Dg層に介在するDc層は、支持や沈下において特に問題となることはなからう。
- 液状化に対する安全性は高い地盤と推察される。

